

カワセミ

Alcedo atthis

カワセミ科・夏鳥



カワセミ

名前の由来

平安時代までこの鳥をソビ、ソニといい、それが転じてセミとなった。そこに川がついてカワセミとなった。魚をとるため、「河の瀬を見る」鳥なので、カワセミ（河瀬見）になったという説もある。漢字名：翡翠

魚類

底生動物

特定種

該当なし

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）17cm。光沢のある緑色、コバルト色、オレンジ色に彩られた美しい鳥。背面はコバルト色。腹面はオレンジ色で下腹は白い。頭上や翼、尾は金属光沢のある緑色。目の下はオレンジ色でその下は緑色。足は赤。体に比べて頭が大きくくちばしが長い。オスのくちばしは黒く、メスのくちばしは赤い。

声：川面を飛びながら「チーッ」あるいは「ツチーイ」、「ツー」などと鋭い声で鳴く。飛び立つときにも2～3声鳴く。繁殖期には木の枝にとまって「チィチィチィ」と小声でオスとメスが鳴き交わすことがあるという。



カワセミの腹（上）と背中（下）

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（葎原・樹林）
ワシントンカ
鳥類

生息環境・分布

平地から山地の河川、湖沼、湿地、小川など。水辺の土質の崖に穴を掘って巣にするが、水辺からかなり離れた崖を利用することもある。

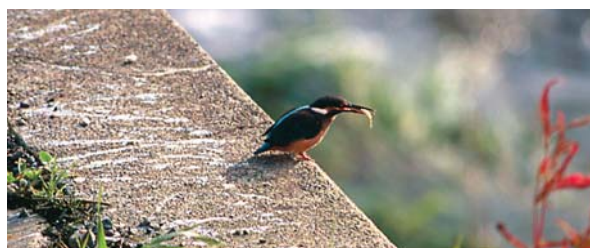
分布：ユーラシア大陸の熱帯から亜寒帯まで幅広く分布。日本では、北海道では夏鳥、本州以南では留鳥として全国に繁殖分布している。

北海道では夏鳥。繁殖する。4月下旬～5月上旬に渡来し、平野部の河川や湖沼に生息する。小さな流れのあるところにもよく飛来する。まれに小さな流れのある農耕地や公園に飛来することがある。

十勝地方では夏鳥として河川の上～下流部、湖沼などに渡来する。河岸の土壁や泥壁に穴を掘って繁殖する。

食性・他生物との関わり

主に小魚。ザリガニ、エビ、カニなども食べる。水辺の杭や枝、水草などにとまり水中の餌をねらい、見つけると水に飛び込んで捕食する。停空飛翔（ホバリング）後に水に飛び込むこともある。捕らえた魚を横ぐわえにし、枝などにたたきつけて殺すと、一息に頭から飲み込む。魚は3～7cmのウグイなどを食べる。捕食者はキツネなどの哺乳類や猛禽類など。



魚を捕らえたカワセミ

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期												
本州以南 (越冬期・通年)												

繁殖生態

繁殖期は3月～8月。ただし北海道には4月下旬～5月上旬に渡来するのでそれ以降。

一夫一妻でオスが争ってなわばりを作り、そこにメスが入りこんでつがいとなる。抱卵期前まで、オスがメスに魚をプレゼントする（求愛給餌）。

河岸の土壁にオスメス共同で巣穴を掘る。下頃辺川の観察によると巣穴は奥行き75cm、直径は6cmであり、一番奥の15cmは少し広がって巣室となっていた。巣室には巣材としてペリット（消化できなかった餌を吐きだしたもの。この場合は魚のウロコや骨）が敷き詰められていた。

4～7個の卵を産む。オスメス交代で卵を抱き、約19日でヒナがかえる。ヒナもオスメス共同で育て、約23日でヒナは巣立つ。



カワセミの巣穴を上から見たところ。写真ではわかりにくいですが、産室は少し広がっている（中央横の白線はメジャー）



産室に敷かれていた巣材。はき出された魚の骨やウロコ

興味深い話

- 土崖に横穴を掘って営巣する。近年は水際のコクリート壁の水抜きパイプなどで繁殖を行った例もある。
- 水中にダイビングして魚を捕らえるが、近くに適当な止まり木がない場合、空中でヘリコプターのように羽ばたきながら停止して（ホバリングという）からダイブする。
- カワセミはカワセミの仲間（カワセミ類：ヤマセミやアカショウビンなど）の中では一番小さい。
- 不消化物をはき出す（ペリットという）
- 完全に水中に潜って捕食するが、その際目の瞬膜（眼をまもる薄い膜）が閉じて目を保護するという。
- 本州（赤坂御用地）では年2回繁殖する例も報告されている。
- 抱卵はオスメス交代で行う。交代するときには後から巣に入る方が鳴き声などで合図してから交代するという。
- 夜はメスが卵を抱くという。
- ヒナに1日に与える魚の数は、オスが約20匹、メスが約10匹だという。初期には2cm程度の小さな魚を与え、後期には親が食べる大きさ（3～7cm）の魚を与える。

■1960年頃から日本の各地で生息域や個体数の減少が報告されているが、1985年の報告では多摩川を中心に生息域、個体数ともに増加してきたという。

■河川工事においてカワセミの繁殖用に「営巣パネル」が施工された例がある。1995年に施工された下頃辺川での例では、1997年6～7月に営巣が確認されたが、ヒナの巣立ちは確認されなかった。



下頃辺川のカワセミ営巣パネル(上)と営巣したカワセミ(下)

配慮事項

繁殖には切り立った土壁が必要。

参考文献

- 「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「野鳥ブックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)

「続々野鳥の生活」羽田健三 監修、築地書館 1985

- 紀宮清子・鹿野谷幸栄・佐藤佳子・安藤達彦・柿澤亮三 (1991) 赤坂御用地におけるカワセミの繁殖。山階鳥研報、23:1-5。
金子凱彦 (1985) 帰ってきた東京のカワセミ。動物と自然、15(2):7-10。

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ